

2018年7月  
公開決定

ドキュメンタリー映画

# 美味しい ごはん

Delicious  
GOHAN



主演  
ちこ

## ちゃんとお米を食べたら 心にひかりが満ちてくる。

どんな映画なの？

### 日本人のごはんを守る ドキュメンタリー映画

昔の日本人にとってお米は特別な存在でした。毎年の収穫に感謝し、神様にお供えする。「いただきます」と手を合わせ、美味しく食べる。毎日の食卓の温かいごはんには、家族の幸せを祈る気持ちが込められていました。しかし近年、手軽な食事が増え続ける中で愛情のこもった、本当に美味しいごはんが、日々、失われていっています。同時に、日常のなかにあった本当の「豊かさ」や「幸せ」も、無くしてしまっているのではないのでしょうか？ かつての日本人のような生き方を、もう一度今の日本で「当たり前」にしたい！ 次の時代を作る子ども達に伝えていきたい！ そんな思いで集まったメンバーで立ち上げたプロジェクトが、日本のお米の復活をテーマにしたドキュメンタリー映画『美味しいごはん』の製作です。



自主制作映画についての説明会を開催！

### 映画「美味しいごはん」の説明会 開催！（参加無料）



本映画は、配給会社が行う劇場での期間限定の上映ではなく、「自主上映」で公開します。自主上映とは、この作品を「共有したい」、「みんなに見て欲しい」と思ってくださった方が主催者となり、自主的に映画の上映会を主催していただけるスタイル。あなたも主催者として『美味しいごはん』伝えてみませんか？ ご興味のある方は、まずは無料説明会にお越し下さい。映画の公式サイト(QRコード)からお申込み頂けます。

【開催日】	【開催時間】	【開催場所】
2018年2月3日(土)	15:00~18:00	G Tビル (大阪府枚方市楠葉)
2018年2月12日(月)	14:00~17:00	白金ビレッジ (東京都港区白金)
2018年3月3日(土)	14:00~17:00	G Tビル (大阪府枚方市楠葉)
2018年3月21日(水)	14:00~17:00	白金ビレッジ (東京都港区白金)

※4月以降も随時開催予定です。

プロジェクトメンバー

 主演 ちこ	 編集 奥田啓太	 ゼネラル マネージャー (総責任者) 小田真嘉
 アート ディレクター 千原徹也	 企画 協力 ひすいこたろう	 制作 プロデューサー 鈴木七沖



映画「美味しいごはん」への想い

ゼネラルマネージャー  
小田真嘉



千年後、神話となつて残る。  
そんな物語を作りたい。

### 撮影を進める中で感じた 「食」に携わる人たちの苦しみ

この映画を始める前から、「食べ方を  
変えたら、生き方が変わった」という  
人たちがたくさん見てきました。私自  
身もその一人です。食べ方というの  
は、「食」に対する向き合い方のこと。  
「食」ってというのは、いのちのことだか  
ら、つまり、いのちの向き合い方が  
変わっていったってことです。そんな  
人たちと一緒に1年間映画を撮り続け  
てきて、今、改めてこの映画を撮る意  
義というか、使命を感じています。  
特にショックが大きかったのは、日  
本の「食」の実態を知ったことです。「食」  
の現場を目の当たりにし、生産者の葛  
藤を知りました。料理人やお母さんた  
ちから嘆きの声を聞きました。「食」の  
現場は今、闇を抱えているのです。

### 誰もが幸せになるのが 本来の「食」の姿なのに…

本来、美味しいごはんの周りにいる  
人たちが幸せなはず。生産者も、  
料理人も、お母さんも、おいしいもの  
を作ってくれています。だから、食べ  
る人たちは皆、美味しいごはんを食べ  
ることが出来ます。なのに、どちらも  
幸せを感じていません。むしろ、苦し  
んでいる人がとても多いのです。そん  
な「食」本来のあり方と真逆のことが  
起きているのが、日本の現状なのです。  
私たち日本人は、あらゆる困難を乗

## この映画には、日本の“食”の流れを変える使命がある

り越え、新しい文化を育て、経済を発  
展させてきました。しかし、なぜか人  
間だけが真逆の方向へ進んでしまっ  
ている…。この映画を撮影しながら、そ  
う感じずにはいられませんでした。

### 千年先の日本を変える映画へ

誰もが幸せに生きていくために「食」  
は絶対に欠かせません。しかし、その  
重要性を忘れてしまっている人があま  
りにも多いんです。だからこそ、この  
映画を広く世に届ける意義を感じまし  
た。「食」の現状の「闇」に対して、こ  
の映画は一つの「光」となつて世の中  
を照らす使命がある、と。日本人の魂  
であるお米をきっかけに、日本人らし  
さや、日本の良さを思い出してほしい。  
そうして「食」本来の価値観を見直し  
ていってほしいな、と思っています。

そういう点から、この映画は「良い  
話だったね」で終わりません。見てく  
ださった方が、「私も美味しいごはん  
つくろう！」って自然と思う映画にな  
ります。料理人やお母さんだけじゃな  
く、日常でごはんをつくる人たちが皆  
そう思うようになったら、世の中に美  
味しいごはんが増えるし、幸せになる  
人がもっと増えます。そんな人たちが  
10年先、20年先の日本をつくり、さら  
には百年先、千年先の日本を変える流  
れができるかもしれません。そんなピ  
ジョンをもって、私はこの映画を広げ  
ていくつもりです。